

総合的な学習の時間や学校行事等を通して、 情報選択能力と情報活用能力の育成をめざして

明戸中学校

1 研究の動機

昨今は「IT革命」と言われ、21世紀のこれからの社会に向けて情報を有効かつ適切に利用・活用していくためには総合的な学習の時間や学校行事・研究発表等の機会を通して、豊富に溢れている情報に対して、積極的に見る目を持ち、適切なとらえ方を養うことがわれわれの果たすべき役目であり、教師自身も情報に対する正しい情報取得と活用を自ら体験しながら会得することで生徒に教える・教えられることを繰り返しながら導いていけるものと考え、設定したものである。

2 研究のねらい

本年度から、1年生は週一時間を総合的な学習の時間に割り当て取り組むことにした。2・3年生は、9月の文化祭に合わせ、それ以前の10時間を割り当てて、集中で取り組むことにした。それらの情報源として、直接体験とインターネット等を利用して調べ学習を行い、自己の課題に対して山ほど溢れている情報の中から必要な情報だけを選択するという情報選択能力と、その調べ学習で得た情報を自己の課題解決のために活用できるのかどうかを検討し、適当な情報だけを取り入れて活用していくという情報活用能力の両面を育成することにした。

3 指導計画

1年生 総合的な学習の時間

自己紹介カードの作成（一太郎を利用して）

- コンピュータの起動・終了と文字入力、拡大縮小の裏技を習得
- 文字飾りと罫線の引き方を習得
- レイアウト枠・オブジェクト枠を利用したタイトル入力、部品呼出機能
- 表作成機能の使い方（誕生日と誕生日カレンダーの作成）を習得
- デジカメで撮影と絵の貼り付け、変更方法で顔写真の貼り付け方を習得
- 写真・カレンダー付き自己紹介カードを完成
- 3Dチャレンジでお世話になる事業所に提出する自己紹介カードの作成

努力の足跡カードの作成（ロータスを利用して）

- 機能説明（文字入力、数字入力）
- 関数（SUM、AVERAGE）、COPY、罫線
- 一週間の発表回数を記録
- グラフを作成（の内容をグラフ化して賞賛・激励を与える）
- 自己紹介カードに記録表とグラフを貼り付ける

進路指導（特活）発表会に向けて資料づくり

- インターネットのホームページの見方を確認
- 同 の調べ学習の仕方（検索の仕方）を再確認
- 同 で過去の3Dチャレンジの実施校の概要を収集

2年生 林間学校

- 旅行先の飯盒炊さん、宿舎、地域について調べる
（例：宿泊地域志賀高原笠岳、一ノ瀬、ホテル、焼額山等）
- 班別行動場所について調べる
（草津町の地形、土産品、利用金額、その他必要事項等）

総合的な学習の時間

- 深谷市・埼玉県の福祉についての考え、老人施設、就労者数、就労時間、人数等
- 青少年犯罪についての要因、中学生の関係事件、生い立ち、件数等
- いじめについての発生件数、県内外との比較、要因、対応策、加害者・被害者側の考え、学年等

進路指導（特活）発表会に向けて資料づくり

- 高等学校について、特色や校風、校訓等をインターネットを使い、調べ学校の位置や通学方法等必要な情報について、収集する。
- 訪問日、デジカメを使用して訪問校の様子を記録する。
- 記録してきた映像情報に、コメントやタイトルを加え、情報を他の訪問校の人に提供できるようにする。

3年生 修学旅行

- 関西地方について、地理的条件等インターネットを利用して調べる。
- 京都・奈良地内の寺院を検索し、拝観料、開館時間、特色(国宝の有無)、拝観方法（許可の必要有無）等を参考に、班別行動の資料に活用する。

総合的な学習の時間

- インターネットを利用して、福祉についての今後の考えを、日本と世界との比較、国際人としての生き方の根本理念等を知り、自己の自分探しの旅に役立てる。
- インターネットを利用して、深谷市や県内の身体障害者施設等を調べ、障害の程度や障害者への思い・生き方等を考え、自己の生き方に役立てる。

関係生徒 文化祭 - 教材提示装置を利用して、調べ学習で得た情報を効果的に提供する。また、体育館では自由研究の成果をプレゼンテーションソフトを利用し、プロジェクターを通して生徒や保護者に情報を効果的に提供する。

4 情報機器の活用の意図・情報教育の視点

- インターネット：遠隔地にある情報や普段知らない情報等を一度にたくさん収集でき、必要に応じて目的とする情報を信頼して入手することができる。
- デジタルカメラ：ねらいとする情報を手軽に入手し、目的に応じて貼り付け、加工が簡単にでき、ニーズに応じて提供できる。
- 教材提示装置：静止画、音声、動画等マルチに利用して多数の人に資料提供ができる。
- プロジェクター：静止画、音声、動画等明るい場所でも鮮明に、多数の人に資料提供ができる。
- パソコン：ノート型は、あらゆる所でインターネットに接続ができ、必要な情報を入力したり、仲間に発信することができる。また、他の機器と接続することにより、マルチに活用ができる。そして、ネットワーク化により校内の仲間と共有ができる。さらに、一教室に集まり会議をしなくても打ち合わせが各場所において情報交換や意見のやりとりができる。

5 成果・生徒の作品、感想等

昨年、深谷市の中学校の中では本校と他の2校の3校が最後にDOSマシンがWINDOWSに入れ替えることができ、情報教育に対する取り組みが大きく変化した。それは、新しいマシンの導入により教師と生徒が一体化して取り組みざるを得ない状況になった。

- 1、総合的な学習の時間を設定することにより、情報教育を基盤とする学年毎の課題を設定し、解決するのに必要な情報をインターネットを利用して豊富に入手することができた。また、豊富な情報から取捨選択して適する情報だけを活用することができた。
- 2、従来は、通常の写真を貼り付けて情報を提示したりしていたために、鮮明だが小さくてやや離れた場所からは見づらかったが、デジタルカメラで撮影した画像を印刷し、添付することで見やすく説明がよく解るようになった。(文化祭で総合的な学習の時間の学習成果や進路指導研究発表会で調べた内容を発表するとき効果的な活用できた。)
- 3、自宅でもパソコンを購入して、インターネットをはじめめる人が増え、いろいろな情報に対して関心が高まり、学校のホームページを参照する人が増加している。また、日常の授業の課題解決や予習にインターネットを利用して調べ学習や事前学習をする生徒が目立ちはじめた。
- 4、学校行事や学年行事の際に、従来は手書きが主流であったが、しおり作成にデジカメ画像やワープロ文字・オブジェクト文字等が加わり、従来のしおりに比べ、いろいろな箇所に変化が見られ、内容が充実したことで、生徒がしおり等を大切に扱いたいという気持ちが見られるようになった。
- 5、今回の研究のねらいは情報選択能力や情報活用能力を育成することであったが、インターネット活用の初年度にあたり、情報活用能力はある程度達成できた。情報選択能力については、調べ学習中に目的外の利用等も多少見られたために更にいろいろな場面で支援を行い、適切に目的達成のための選択が迅速に行えるように今後とも継続して進めるつもりである。



上：1・2年生
総合的な学
習の時間
中：文化祭（総
合的な学習
の時間発表
会）
左：1年生自己
紹介カード
3年生エコ
マーク